

光輪

第139号
〒950-2022 新潟市西区小針4丁目5番18号
真宗佛光寺派 瑞林寺 光輪会
電話 (025) 266-1846・FAX (025) 266-1907
瑞林寺ホームページ http://www.zuirinji.com

令和4年度 光輪会費の納入はお済でしょうか。6月より新年度となります。



7月9日(日) 午後1時半より 受付午後1時より

令和5年度 光輪会総会

【第一部】
光輪会会長あいさつ
・住職あいさつ
・議題
・休憩

【第二部】
瑞林寺第十九世住職 淤泥院釋 憲隆 三 回忌法要
紫雲院釋 芳隆 二十七回忌法要
第十八世坊守 薫習院釋 香華 二十七回忌法要

・おつとめ
・住職講話
・恩徳讃唱和
・閉会あいさつ

2頁「光輪会総会案内」
ご参照ください

写真：本山「慶讃法会」の大師堂（大師堂または御影堂は見真大師（親鸞聖人）が祀られています）

瑞林寺の由来と歩み



曹洞宗 昌興寺住職 石田哲彌師

將軍徳川秀忠との出会い

慶長10年（1605）徳川秀忠が二代將軍に就任。暇を見つけては上野の山において鷹狩りを楽しみました。その途次、休憩や宿泊をしたのが同輩の堀直寄の屋敷でした。その接待に現れたのが奥女中の指導者、妙徳院でした。

「へらい美人だ」秀忠はこの時に「電撃の恋」に襲われてしまいました。三十を既に越えているに違いないが、清楚でたおやかな立ち振る舞い、そして恐ろしいまでの美貌。顔は内からまるで光がさしているかのように輝き、肌は越後特有のしっとりとした潤いを持ち、なにげない仕草の一つひとつに何とも言えない気品が漂っていました。しかも語れば、深い教養

妙徳院の娘 和子姫の入内

に裏付けられた心弾むような答えが返ってくる。美貌と清楚な立ち振る舞い、加えてその聡明さに秀忠はすっかり心を奪われてしまいました。そして二人はいつのまにか深い恋に陥り、密かに愛を育んでいったのでした。

元和6年（1620）將軍徳川秀忠の息女、14歳の和子姫は後水尾天皇に嫁ぎました。奥80丁、騎馬と歩行の衆5千人という、いまだかつてない超豪華な大行列が東海道53次、江戸から京都へ125キロを20日をかけて練りある。きましたか、かくして幕府の威信をかけてた公武合体が成就したのでした。いわば、徳川幕府三百年の礎がここに築かれたのでした。徳川家康が目論んだ最後の総仕上げでした。

次回 お楽しみに!

9月3日(日)

朝7時 瑞林寺本堂集合

読経&ヨガ・法話・薬膳弁当とお話

来年度 2023年 9/3 12/10 全日程 日曜日 朝7時~

参加費 **5,500円**

最初で、そして最後でした。いわば歴史上がった一回の稀なる出来事といってよく、妙徳院なくば実現しなかった快挙でした。和（まさ）子姫14歳。母の妙徳院48歳。妙徳院の祖父、本庄実乃は墓場の下で、この珍事を一体どのような眺めで見ているでしょうか。目を細めた笑顔が浮かんできます。

淤泥院

本山での慶讃法会はこの5月、3週にわたる金・土・日で開催されました。住職も一ヶ月は新潟には帰れない覚悟で法要に臨みました。長男も今年春から本山勤務で、やりくりは全て坊守と法務員のみなさんにお願ひするしかありません。

■ ところが5月に入り、以前より悪かった坊守の体調が悪化し、緊急入院することになりました。住職不在の影響がどうとう出てしまいました。坊守の体を心配しながらの法要、しかし抜けるわけにはいかず法要を終えてからの京都と新潟の往復。18日、20日は瑞林寺の本山団体参拝。その間お寺は、住職の妹（長女・次女）坊守の兄や娘に守ってもらいました。本山でも周りのみなさんに支えられ助けられらうじて仕事が出来たこと。この一カ月、よく乗り越えられたきたか不思議に思います。正に皆さまのお陰まで生きていくことを実感させられます。

しんらんさまの日 6月25日・7月23日・8月20日の予定です

法話 「慶讃法会」とは

住職 廣澤晃隆

本山では慶讃法会がこの5月、全国から約5千人のご門徒さんが集まり賑々しく勤まりました。瑞林寺からも本山へお参りさせていただきました。

「慶讃法会」とはどういう意味かと言ふと、「慶讃」は「慶び褒め讃える」です。それは「仏法」に出会うこと、集うことに慶讃すること、「法会」と言います。

現代社会において、人間が本当に「慶び褒め讃える」社会が成り立っているでしょうか。自分の思い計らひ、ものさし、色眼鏡ばかりで人を傷つけ裁くばかり。みんなが裁判官であり評論家です。

お釈迦さまはその世界を地獄の世界と言われました。「地」とは地面に閉じ込められ身動きできない状態。抑圧としがらみで、がんじがらめになっている。「獄」とは獣へんと天に「言」がはさまれています。まわりの意見や考えに押し流され自分の言葉が通じない、それを地獄の世界とよびます。



「慶讃法会」本山境内の様子

親鸞聖人は、自らを「愚禿」と名づけた。常に自分は愚かな身であると。しかしそれは仏法に出あわれて自覚された言葉であって、自分を卑下された言葉ではありません。仏法は人の生きる法則です。人は一人では生きられない道理。それを聞くことで、お互いがお互い慶讃し合う身になる、それを「慶讃法会」とよびます。

それはこの5月の法要だけではなく、日々の生活の中で仏法を聴聞していくことにつながります。どうかお寺に足を運び、日々仏法に出会う生活を送ってくださいませようお願ひ申し上げます。

今日の掲示板 (四・五・六月)

5月 未来も 過去も 現在も 決まる

未来はすでに決まっているものはありません。現在はいつだって「かもしれない」の連続、何が起るか分からない。私がどう決断するか、今、現在です。どんな嫌な過去であっても、それが今の自分を作り出している。今までの過去の苦勞は今の自分に送り着く道程であったのでしよう。答えは誰も与えてはくれませんが、自分で獲得していくものであります。

6月 佛とは 本當の人の 成るこゝ

亡くなった人を佛さまとよく言いますが、それは死によって肉體からほどけることから言われます。人間の苦しみ悩みの原因はこの肉體あればこそ。佛とは目覚めるという意味です。成人式を迎えても大人になりにくい現代。身体は育つても心と精神は大人になりにくい。本當の成人になるには「当たり前と思っていた事が実は当たり前でなかった事」に気付くことではないでしょうか。

京都の終

本山参拝報告

5月18・19・20日の3日間、本山「慶讃法会」に光輪会17名の参加を以て参拝してまいりました。満堂の中、雅楽生演奏もあり、厳かに勤められました。



「慶讃法会」雅楽演奏

また、大阪まで飛行機を利用し、京都観光に時間を十分に確保した旅程とした中で、親鸞聖人の史跡をはじめ、名所も探訪。本願、青蓮院、京都国立博物館「親鸞展」法然上人の知恩院などをまわりました。



浄土宗本山「知恩院」



金閣寺参道の様子

コロナを脱した京都市内は、観光地としての活気を取り戻しつつあり、海外観光客、修学旅行、また、真宗各派の「慶讃法要」が厳修されており、どこも人で溢れておりました。

光輪会総会 案内

瑞林寺前住職

淤泥院釋 憲隆 三 回忌

前坊守 紫雲院釋 芳隆 二十七回忌

前々坊守 薫習院釋 香華 二十七回忌

光輪会総会にあわせて、前住職（憲隆）三回忌、並びに前坊守（美耶）前々坊守（敏子）の二十七回忌の法要を執り行いたくご案内申し上げます。

日時 七月九日(日) 午後一時半より(受付一時より)

一、光輪会総会
一、法要 正信偈・六首引和讃
一、法話 住職 廣澤晃隆

お明し料 一、〇〇〇円 (お斎はありません)

おめしもの軽装で結構です。光輪会式章(輪装袋)・数珠ご持参ください。

新米 坊さん日記

先日本堂において、あるご門徒様の13回忌法要がありました。開始一時間前から続々とひと家族ごとにご来院。集まった数は20名。待合場所とした広間はとても賑やかでした。

揃うまでのあいだ、ある方は遠方旅路を勞ひ、またある方は久しぶり、嬉しそうに孫や甥っ子に近況を聞き、話しておられました。これまでのコロナ禍事情もあり、中々集まれなかった親戚一同がこうして集まったことを、皆さま大変喜んでおられるようでした。

一族の絆とは、血筋から見ても他人ではないという社会関係性をいふものではあっても、この方々を見れば、そう単純なものでは無いかもわかります。そんな大切な親戚であっても都合を合わせ、集まるのは非常に難しいものです。しかし、故人を介した法要となれば、動かせない筈の都合はどうでしょう。法要は一番の都合となり、他の予定をどうにかするわけですね。一族の絆や縁は、仏さまである故人が法要というかたちで用意してくれた、私達への大切な覚書なのかもしれません。(山崎)

老院の三回忌を迎えるにあたり、月日の流れを早く感じます。